

マザーハウス たより

あなたは愛されるため、また、愛するために生まれてきたのです。あなたが必要であり、大切です。マザーハウスはあなたの家族です。

移送・出所される方は、必ずご一報ください。

2018

10 月号

表紙：Y・Kさん

- | | | | |
|----|------------|----|-------------|
| 2 | 理事長挨拶 | 20 | Lovely DAYs |
| 4 | 社会の声 | 21 | 健康相談窓口 |
| 7 | ささきみつおコーナー | 22 | お知らせ |
| 14 | 育児日記 | 23 | 行事予定 |
| 14 | 塀の中のたより | 23 | つぶやき！ |

理事長挨拶

皆さん、いかがお過ごしでしょうか。運動会の季節ですね。今月の中旬に、息子の幼稚園でも運動会があり、仲間たちと参加してきます。

注意事項について

先日、数名の受刑者から連絡があり、「マザーハウスは何を支援してくださいのですか」と聞いてきました。私には、彼らに対して何も支援することはできません。それは、彼らが自分で真剣に考えていないからです。「こうやって変わりたいから助けてほしい」という具体的な考え

をしていないからです。相手におんぶに抱っこ状態なのです。これではどうしようもないと思います。社会は厳しいです。このような考えの持ち主に誰も関わりようとはしないと思います。

大切なのは、「自分を変える」という強い意志です。人を変えることは難しいですが、自分自身を変えることはできます。本気度の問題であると思います。私にできたことが皆さんにできないということはないと思います。

何回も書きますが、「身元引受人になつてほしい」と言ってくる人がいますが、仮釈放がほしいという気持ちはよく分かりますが、それでいいのでしょうか？

先日、仮釈放中の方が殺人事件を犯しましたが、その方は受刑中、何をしていたのでしょうか？多くの方が、「自分は大丈夫だ」と言います。私はそういう人が一番、危ないと思います。「自分は犯罪を犯しやすい人間である。危ない人間である」と認識しているなら、言動が違います。

また、何回も言っていますが、マザーハウスの文通は女性との出会いを求める場所ではありません。女性との出会いを求めるのであれば、親族にお願いしてください。

それから、当法人や私に初めて出す手紙の中で、様々なことをお願いしてくる方がいますが、当法人は「何でも屋」ではありません。受刑者の皆さんの御用聞きではありません。あくまで、更生に関するサポートしかできません。そのため社会の方からご支援をいただいているのです。

また、文通スタッフに何かを依頼することは一切しないでください。文通の同意書をよく読んでいただきたいと思います。ルールに反することが発覚した場合は、他の参加者に迷惑をかけたために、MLPの存続のためにも、文通中止とさせていただきます。何のための文通であるのかをよく考えていただきたいと思います。相手のこと、他の参加者のことを考えることが非常に重要であると思います。

文通のやり方については、入会申込書一式に書類（同意書）が入っていますので、よくお読みください。同じことを何回もするのはやめていただきたいと思います。今後は対応できかねます。マザーハウスは少数のスタッフで運営しているのです。皆さんの協力がなければ運営が滞ってしまいます。

文通スタッフの皆さんも、お手紙のやり取り以外のことはしないよう、切にお

願います。一人の方が過度の支援をすると、他の文通スタッフにも依頼が来てしまうのです。受刑者の皆さん、文通スタッフの皆さん、どうかMLP全体の他の参加者のことを考えていただきたく、切にお願いいたします。

近況報告

福祉新聞の十月一日号に、マザーハウスのことが掲載されました。記事をご紹介させていただきます。

絶えず
祈るなま

T・Tさん

☆

刑務所から出所した人が運営する喫茶店「マリア・カフェ」（東京都墨田区）が九月一日、オープンした。

誰でも気軽に入れる店を目指す。地域住民と交流できる場を設けることで元受刑者の孤立を防ぎ、犯罪から遠ざかれるようにする。人とかかわりによって自分を見つめ直すことを何よりも重視している。

カフェは都営新宿線森下駅から徒歩十分ほどの倉庫を改装したもの。寄付を募り、元受刑者が天井をペンキで塗るなど手づくり感があふれる。コーヒーはアイスが二百円、ホットが百円。平日の午前十時から午後六時まで、計十人が交代で切り盛りする。

運営するのはNPO法人マザーハウス（東京都）。五十嵐弘志理事長（五十四）は前科三犯、二十年近く刑務所で過ごした。獄中で聖書に出会って回心し、二〇一一年十二月に出所、二〇一四年五月にマザーハウスを立ち上げた。

現在、服役中の受刑者と文通（約七百人）し、出所後の生活保護申請や住まい探しなどを支える。支援を継続

中の元受刑者は五十人。その中で、障害を抱えるなど福祉が必要な元受刑者が生活保護などからはじかれると怒りをあらわにする。

「国は再犯防止に取り組んでいるというが、それならば元受刑者の声をもっと聞いてほしい」。そのためには、元受刑者をもっと話し合う場、人と出会う場をつくるのが先決だと考えた。

五十嵐さんの口癖は「人生は出会いで決まる」だ。自著『人生を変える出会いの力』（ドン・ボスコ社）や犯罪防止に貢献した人を表彰する「作田明賞」の受賞スピーチ（二〇一七年八月）でもこのフレーズを繰り返した。

九月十二日夜、カフェで開いたミーティングのテーマは「回復とは何か」。薬物事件で二度服役した男性（四十）は、幼児を連れた女性がカフェに入ってきたとき、自分が店員として何を話したらいいか戸惑ったことを報告した。

これに対し、五十嵐さんは「回復とは自分と出会うことだ」とし、社会で出会った人を通して自分を知ることの大切さを語った。

(以上)

☆

また、「JAM THE WORLD」に生出演して来ました。パーソナリティーはジャーナリストの青木理さんでした。初対面とは全く思えないくらい、気軽に話しかけることができました。

なぜ犯罪をするのか、再犯防止をするにはどうすれば良いのか、マザーハウスの活動等をお話ししました。

その中で、刑務所改革が早急に必要であり、どんな人間であつても人権は守られるべきであること、人として尊重することが大切であることを話しました。また、多くの受刑者が愛され、大切にされ、必要とされた経験がないため、人を愛し、大切にすることができない。だからそれを学び、訓練することが必要であること、そのためには自分の時間を捧げたり、お金を捧げたり、人のために何かを捧げることが刑務所で体験させることが必要であると伝えました。

社会と刑務所のつながり、交流を大切にすべきであること、また、現在の刑務所は閉鎖的で、何をしているのか社会の人が全く分からない状況なので、刑務所をもっとオープンにするべきであること、そして、社会に居場所を作るためにも、マザーハウスは活動していることを話しました。

さらに、TBSの深夜に放送している「NEWSなふたり」という番組の収録がありました。ジャーナリストの青木理さんであるNEWSの加藤さんが、「マリア・カフェ」にお越しください、当事者たちに質問をしながら対談させていただきました。

加藤さんに、「刑務所の常識は社会の非常識であり、社会の常識は刑務所では非常識である」「刑務所の中で自由なのは空気を吸うことくらいですし、考える力を奪っている」と伝え、社会復帰するためのことなどを、体験に基づいて各々が話をさせていただきました。



↑当事者ミーティングの様子

取材が多くなり、私が気を付けていることは、絶対に天狗にならないことです。そして、どんな圧力があっても、自分が体験したこと、思っていることをきちんと話すことです。

ネットなどには、批判の書き込みがたくさんありますが、全く気にしません。何故なら、その人たちは人から愛されたり、大切にされたりした経験がないから、人を攻撃し、傷つくことしか言えないと思うからです。悲しいことに、人を生かす言葉が言えず、人を殺す言葉しか言えないのです。真の愛を知っている人はそのようなことをしないと私は思います。いつも謙遜でありたいです。そして、活動が続けられていることに感謝です。



↑JAM THE WORLDにて、
青木理さんとの写真

社会の声

対談（文字起こし）

被害者×加害者家族×加害者

☆今年の三月二十四日に行われた、被害者支援（片山徒有さん）、加害者家族支援（阿部恭子さん）、加害者の更生支援（五十嵐弘志）を行う三者による対談の内容をご紹介します（掲載の都合上、一部編集しております）。

（先月号のつづき…）



☆阿部さんから、お二人への質問

刑事弁護の問題について

五十嵐さん

特に国選（弁護士）なんかは、国が「金額はいくら出す」って決めてあって、ほとんど利益なんか出ない中でやっている。（だから、手を抜いてしまうのも仕方ないかもしれない。）でも僕は、「じゃあ何で弁護士になるの」って思うんですね。

弁護士法の第一章第一条に「社会正義」ってある。「社会正義って何なの」って弁護士さんに言いたい。やはり、当事者たちの声を聴いていないのが、（冤罪などの、刑事弁護における問題の）大きな原因だと思っんですね。

司法修習をやつて、裁判官、検事、弁護士になる。その時に、被害者の声や、加害事件を起こした人の声とかを、きちんと聴くことが大切だと思うんですね。当事者の声を聴くということができないから、否認事件みたいに、本人が否定しているにもかかわらず、弁護士さんが何もしないで、結局、事件判決になって、

真犯人が出てきて、「冤罪です」ってなる。じゃあその、懲役〇年っていう判決は一体何なのか。弁護過誤ですよ。でも結局、それに対して弁護士会は何もしないわけですよ。弁護士さんが何かの横領をしたとか、そういうのだと、懲戒処分とかあるんですけど。

やはり僕は、刑事弁護をする方は、研修の中でも必ず、被害者の声や加害者の声や家族の声をきちんと聞いた上で、「本当にこの人が犯罪を犯したのかどうか」っていうことを、自分の心象とかも全部含めて見るべきだと思うんですね。それを、検察官の作文だけを読んで、「あ、この人やっちゃったんじゃないの」っていう感覚を取る自体が間違っている。全部疑ってかかるべきだと思うんですね。本当にこの調書が全部正しいのか、検事が言っていることが正しいのか、っていうのを全部疑ってかかって、そしてその上で、被告人に疑わしい部分を徹底的に説明させる。「これは何で」という風に言うたんですか」と。そういうことをきちんと弁護士さん自身がやることですね。

だから僕は、正直な話、刑務所にいる方々で何パーセントかは冤罪だと思っています。実際は、犯罪をしていないけれども、社会は一度判決が出ちゃうと、「冤

罪」って言うてもなかなか相手にしてくれない部分があるので、それで泣いている人間も実際にいるんじゃないかなと思う。

それは、僕は、被害者の方々にとっても、「正義」っていう部分ではちよつと違うんじゃないかなと思います。

片山さん

あまり、起訴後で裁判前の関わりって、私はあまり詳しくないんですけども、例えば今、五十嵐さんが言われたように、冤罪っていうくりで言う罪を認めていない人も、中にはいると思うんですね。認めていても、起訴事実のうち半分くらいしか犯罪事実を認めていないという人もいます。

ですから、裁判が終わるまでは、支援団体との関わりが薄いついていうのは仕方ないようにも思います。

ただし、何かのかたちで、その期間（裁判の判決が出るまでの期間）を短くするのはできるんじゃないかなと思いますね。

例えば、公判前整理では、割と時間がかかってしまう。非公開で行われているので、このように時間がかかるのか分か

らないですね。以前と比較して裁判は割と早く終わるようになったかなと思うんですけども、その前の期間については、もうちよつと改善の余地はあるのでは、という気もします。

あと、弁護士さんの質についても、例えば、被害者側にも、国費で支援弁護士がつくような制度ができたんですが、それも起訴後の話で。本当に必要なは事件直後の最初の事情聴取の部分などにも弁護士さんに付き添ってほしいんですが、そういう時には弁護士さんはついでくださらない。

そうすると、僕ら民間の支援者が、嫌われる覚悟で警察に行つて立ち会いをしたり、少年事件の付き添い人と同じようなことをしたりして関わる事ができるかもしれないと思います。

一方で、例えば、受刑者さんから話を聞いてみると、すごく毒な話を伺う事もあります。「もう少し自分の主張をすればこままでの刑罰を受けなくても済んだんじゃないかな」って思う人は時々います。「（この結果で）良かったんですか」って聞くと、皆、「良かったんです」と一様におっしゃるんですけども…。

日本という国は、自分の権利を強く主張したものしか評価されないという文

化があるのかなあと思つたりもするんですけども…もちろん被害者側のアピールもあるんですよ、でも一方で、罪を背負う側としても、おっしゃりたいことはきちつと整理して、罪を償うような事をしてほしいのではないかと、思います。

そのために例えば支援者が必要であれば、なるべく幅広い人達の関わりを持つて、その人を支えていくということが欠かせないのではないかなと思います。



K・Jさん

☆片山さんから、お二人への質問

専業で支援の活動をするこについて

（※片山さんは、デザインのお仕事と両立して被害者支援の活動をされており、それでバランスを保っている部分があるとおっしゃっていました。そこで、専業で支援の活動をする場合は、どのようにバランスを保っているのかお聞きしたいのとです。）

阿部さん

よく、「こつという活動をする動機とかモチベーションを聞かれるんですけども、端的に、毎日のように相談が来るのだから、夢中で対応してきた感じですよ。

朝起きると電話があるし、それに答えていくことで、今まで十年経ってきたなつていふかんじですよ。

大きな事件で、相談者と関わる期間が長いケースでは色々な課題がたくさん

ある。家に住めなくなりそうだとか、仕事も失うかもしれないとか。そうしたケースを現在は、年間二百件くらい扱うようになっていきます。長期間の支援が必要なケースから、情報提供だけさせていただくケースまで。そこに追われていたら、今に至る、と（笑）。

私にとって加害者家族支援はライフワークなので、そんなに何か、周りの人が言われるほど負担とかはないです。

やればやるほど、もっと関わりたいという気持ちになっていきます。他人事じゃないなって思っんですよ。

「え、こういう普通の家庭でもこんなことが起きてしまうの」、といったケースがたくさんあつて。

あとは、「ちゃんと関わって寄り添えば、何か変化が訪れる」っていう、その変化を確認できたことが一番のやりがいなんです。加害者家族支援によって加害者の再犯が止まっているとか死にたいと言っていた家族が生きている…そういう、支援して嫌な事ももちろんあるけれど、良い事の方がたくさんあつて。泣いていた家族が笑ってくれることが一番のやりがいだし、もっとそんなケースを増やしたい。

私が、というよりも、私の後ろにいらっしやる加害者家族がそうさせている、と思います。私を動かすのは、やっぱり愛情だと思っんですね。

家族が罪を犯したけれども、愛してるといふ。その愛し方がもしかしたら間違っていたかもしれないけれども、愛があるのと無いのでは全然違うと思っんですよ。何かそういう思いに突き動かされるというか。

それは被害者の方から感じることもあつる。

例えば、初めは、被害者に謝罪に行く時が怖くて怖くて。今でも、怖くないわけでは全然無いですけれども。少なくとも、厳しい言葉しか言われぬ、まあ当たり前ですけどね、その怒りっていうのが、単なる怒りじゃなくて、根底に愛情があると分かってきた。怒りの根っこは、亡くなった人への愛情。愛する人のために赦してはならないという愛情。そのことが分かってから、少し、勇気が出るようになりました。

「怒りの中の愛情」っていうことが分かって…人生でこんなことってあんまり出会えないじゃないですか。それは代えがたい…何というか、何にも代えられない経験だなと思っつてやらせてもらっています。

五十嵐さん

僕は、カトリックの信者なんですけれども、この活動の大きな原点は、マザー・テレサが言った言葉です。「私は最も貧しい人のところに行つて働く」。

じゃあ日本の最も貧しいところってどこか。誰にも相手にされない、家族からも相手にされない、孤独の中にいる。それがたまたま、自分の体験した刑務所だった。

「その人たちが回復するには何が必要なのか」って思つた時に、やはり、友であつたり、一緒に歩んでくれる人であつたり、家族であつたり…。

その中で、僕は「家族」っていうものに出会いがあつて、今は子どもが三人いる。自分の子供たちに、自信を持って、「父ちゃん、昔こうだったけれど、今はこうやって生きてるんだよ」っていうことを伝えたいし、当事者である受刑者一人一人、また出所者たちに、新しい人生の中で、「俺は今、最高に幸せなんだ」って、そうやって思える人生を歩んでほしい。

先ほど阿部さんがおっしゃったように、自分の後ろにいる方々、今も中で苦しんでいる仲間たちがいるので、誰かが（刑

務所の）壁を崩していかなければどうにもならないっていう部分がある。

自分の本の中でも、「人生を変える出会いの力」と書いているのですが、やっぱり出会いがあるからこそ、パワーをいただいているっていう部分があるので、そのパワーがこのマザーハウスを引っ張っていると感じる。

当然、関わっている人間が逮捕されちゃったということで、面会に行くと、ガラスの向こうにいるわけですよ。自分も、そのガラスの向こうにいた経験があるので、やっぱりつらいですよ。同じ仲間がそこにいるっていうのがつらい。だから何とか、僕たちの方に来て、もう二度とそっちに行かないでほしいっていう、切実な願ひっていうんですかね。それが今の力になっているんじゃないかなって僕は思います。

（おわり）

K・Jさん



むむきみつお

「コーナー」

* ブログ : <http://ixsasaki.ti-da.net/>

神に修復不可能なもの

何も無い

※ David Wilkerson さんという牧師先生のお話の訳文の一部を、ささきみつお先生が修正してくださったものを「紹介し
ます。

☆

聖書の創世記の中で、神様がアブラハムに現れた話を知っていると思います。

「この家長は樫の木の下に三人の男が突然現れたとき、暑い屋下がり、自分の天幕の入口に座っていました。アブラハムはこの人たちに会いに走って行き、食事の用意をし、彼らを迎えました。」

会話の中で、主はアブラハムに驚くべきことを言いました。

「来年の春…、あなたの妻サラには男の子が生まれているでしょう。」(創世記十八章十節)

天幕の中でその会話を聞いたサラは、笑ってしまいました。「そんなことはありません！」と彼女は思ったからです。

八十九歳の妻のサラが子どもを身ごもる年齢はとうの昔に過ぎてしまい、九十九歳の夫のアブラハムも子どもを授けるには年を取りすぎていたからです。

神様はサラの笑いを聞かれてこう言われました。

「…サラはなぜ、「私はほんとうに子を産めるだろうか。こんなに年をとっているのに」と言って笑うのか。主に不可能なことがあるか。…」(十三〜十四節)

私がこのメッセージを書いたのは、神様が現代の神の子たちに同じように問うておられるからです。

そもそも、全知全能の宇宙万物の創造主なる神にとつて、難しすぎることはありませんのでしょいか？ 私たちはそれぞれ、さ

さまざまな困難に直面します。その中で、神様は問われます。

「あなたの問題をわたしが解決できないと思うのか？ それとも、どんな不可能な問題でもわたしには解決できると信じるのか？」

イエスさまは私たちに、「人にはできないが、神にはできるのです。」(ルカ十八章二十七節)と言われました。

あなたは主のこの言葉を信じますか？ あなたの結婚、家庭、仕事、将来について、「もう不可能だ！」と思っていることを、主が可能にされると信じますか？

私たちは他の人たちには、簡単に、「神様がちゃんとやってくれますよ」と言います。

愛する人たちが困難に耐えているのを見てこう言います。「頑張つて。主を見上げていて。神様にはどんなことでも可能なの。主を信頼し続けるのよ。主は不可能を可能にされる神様なのだから。」

けれども、私たち自身はこの真理を本当に信じているでしょうか？

サラは主の言葉を疑いましたが、おそらく自分の友人には、このようにアドバイスしたでしょう。

例えば、子どもを欲しがっているが年を取りすぎている他の敬虔な夫婦の同じ状況を、サラが聞いたとしたら、どうしたでしょうか？ その夫婦は神様が子どもの誕生を約束されたのを信じていましたが、どんどん老いていきました。彼らは神の約束に対する確信を少しずつ失っていきます。

もし皆さんがサラに、「あなたはこの夫婦に対して何と言いますか？」と質問したなら、彼女はおそらくこう言うでしょう。「諦めてはいけません。希望を捨ててはいけません。あなたは不可能を可能にする神様に仕えているのですから。主は必ずそれを可能にしてくださいませ。」

でも、サラ自身はこれを信じられなかったのです。

多くのクリスチャンも同じです。私たちは周囲の人に神の力を大胆に語りますが、自分自身のことについては神の言葉を本気で信じてはいません。

「神様は不可能を可能にされるお方である」と信じなければ、神様を本当には信じていないのです。

「神様はすべての造り主である」と信じただけでは十分ではありません。「日常生活の中における様々な問題について、主は不可能を可能にしてくださいるお方である」と信じる必要があります。

聖書はこれについてはつきりと書いています。つまり、もし、これを信じないなら、主をまったく信頼していないのと同じなのです。

私はこう考えます。どんなにたくさんのカウンセリングを受けても、神の奇跡が起きることを疑っているなら、何の益もありません。

誤解しないでください。私はクリスチャンのカウンセリングに反対しているわけではありません。でも、「どのような問題であっても、神様がそれを解決してください」とと本心で信じていない人には、カウセリングは何の役にも立ちません。

私のところにカウセリングを受けに来た夫婦が、「神様は自分たちの関係を救ってください」と信じないなら、私は彼らに何も与えられないことを知っています。

状況は彼らの目には救い難いものに見えるかも知れません。何年もかかって、彼らの間に恨み辛みが積み重なったかもしれません。それでも、彼らは、「神様

が不可能を可能にしてくださいる」と確信しなくてはならないのです。

このような夫婦に、私は「言うことにしています。」

「そうですね、カウセリングをしましょう。まず聞いておかなくてはならないことがあります。あなたは神様が本当にお二人の夫婦関係を修復することができるとお方であると信じておられますか？あなたの目には状況がどんなに希望のないものに見えても、神様はあなた方の関係を修復する力があるという信仰を持っておられますか？」

中には「言う人もいます。「あなたは私が夫（または妻）と、どんなことがあつたかを、知らないのです。私は深く傷ついています。私の心の傷は、あなたには理解できないのです。」

「このような反応は、彼らが悪魔の語る嘘を、鵜呑みにしていることを語っています。悪魔は彼らの状況にはもう救いようがないと信じ込ませているのです。」

イエスさまは神の子たちの一人ひとりに、明確に語っておられるのです。

「人にはできないことが、神にはできるのです」(ルカ十八章二十七節)

「この国の色々な場所で、クリスチャンが夫婦関係を放棄しています。私の友人の牧師や牧師夫人たちにも離婚する人がいます。彼らと話すとき、彼ら自身、自分たちの結婚生活が修復され得るとは信じていないのです。不可能に見えることを、神様が彼らのために可能にしてくださいる」とは信じられないのです。

自分たちの結婚を諦め、悪魔との戦いを放棄してしまうクリスチャンの夫婦たちは、彼らの結婚が修復されてほしいとは真に願っていません。事実、私のところに相談に見える方々の多くが、あらかじめ夫婦の関係を断ち切る決心をしているのです。彼らが私のところに来る唯一の理由は、彼らが既に決めた方向に、私のお墨付きが欲しいからなのです。

愛する皆さん。あなたの状況の中で、神の言葉を絶対的に信じなければ、世界中のどんなカウセラーにもあなたを助けられないのです。

あなたの人生のどのような問題でも、神様に解決できないものは何もないのです。そうでなければ、あなたのキリスト信仰は空しいものです。なぜなら、あなたは神様をある程度までしか信じていないのです。不可能を可能にする神様であると、本心では信じていないのです。

ある牧師夫人が、「ご主人の習慣的な嘘について、手紙をくださいました。この牧師の嘘は本当に見え透っていて、何度も暴露されました。そして教会員の人たちがそれを指摘しても、彼は否定し続けました。」

彼の奥さんは「書いていました。「私は夫を恥ずかしいと思います。子どもたちも彼を信頼してはいません。彼は力強い説教をしますが、真実を語るべきではないのです。それは彼の中に真実がないからです。」

彼女は手紙をこう閉じていました。「私は夫の元を去ろうと思っています。」私は「この女性に同情します。でも、「神様は不可能を可能にしてくださいる」と彼女が信じていないことも私には分かりました。彼女はある程度しか神様を信じてないのです。だから、夫から去ることを決めたのです。」

クリスチャンにとって、その伴侶が自分に暴力で虐待を加えない限り、離婚は選択肢ではありません。身体的虐待のあるときは家を出て行くべきです。

それ以外はどのような場合も、主は「つきりと、「わたしはあなたの神である。わたしにはどんな問題でも解決できる」と言われるのです。」

私はこの女性がこう書いていてくれたら良かったのと思います。

「私は、子どもたちが夫の機能障害の後継者に成りつつあるのを見ています。そして主人は、罪を犯しつつけることで、いつか講壇からも降ろされることでしょう。でも、私はどんな問題も修復するとうがでる神様に任せています。私は主がこの夫婦関係を救い、家庭を回復し、教会をもう一度建て直してくださると信じています。私は、どんな事があっても、夫と共に居続けようと思います。私は神様が言われることが真実である…(神に不可能なことは何もない)…と信じます」。



風つ子さん

マルコの福音書九章には絶望的な状況が描かれています。それを修復するのは不可能に見えました。途方に暮れた父親が、悪霊に取り憑かれた息子をイエスキリストの弟子たちのところに連れてきました。

この少年はただの問題児で反抗的だったわけではありません。彼はたくさんの悪霊に取り憑かれて、その悪霊はこの少年の行動をことごとく制御していました。彼の状態は地元有名な話でしたから、彼が近くに来るのを見たら、人々は自分の子どもを急いで家の中に入れたことでした。

この哀れな少年にはまったく希望がないと思われていました。彼は嘔吐でしたから、喉から吐き出すような声しかなかったのです。狂犬のように口から泡を吹き、その身体は内なる悪魔との戦いのために骨と皮にまでやせ衰えていました。彼の父親は常に彼を見張っていなくてはなりません。それは悪霊たちが、父親の目の離れた隙にこの少年を近くの川や、湖、または火の中に投げ込んで殺そうとしていたからでした。

何度もこの父親は沼から息子を引き上げ、息を吹き返させなくてはならなかったことでしょう。息子を自殺から守るだ

けで、父の日々は費やされていたに違いありません。この少年の身体に傷や火傷の後がいつか幾つあったのでしょうか。

誰も助けてくれる人もなく、息子のそのような姿を日々目にしていた父親は悲嘆に暮れていたのではないのでしょうか。

そして今、父親は弟子たちの前に立っていました。サタンは少年に働き始めました。彼は口から泡を吹き、身体を曲げて地面を転げまわり始めました。

聖書は、弟子たちがこの少年のために祈ったと語っています。恐らく長い間だったでしょう。でも、何も起こりませんでした。

まさにそれは不可能な状況でした。その場にいた疑い深い律法学者たちが彼らに言い始めました。

「なぜこの少年は癒されないのか？お前たちの主には、これは難しすぎるのか？このような状況では、お前たちの主よりも悪魔の方が強いのか？」。

そこにイエスキリストが来られました。「どうしたのか？」とイエスキリストに聞かれて、父親はこう答えました。「私の息子をお弟子たちに連れてきたのですが、息子はいやされませんでした。ああ、息子はどう絶望です！」。

これに対して、イエスキリストは簡潔にこう答えました。

「信じる者には、どんなことでもできるのです」(マルコ九章二十三節)

キリストは、その場にいた全員に対して、「わたしが悪魔の支配を打ち破れないとでも思っているのですか？いいですが、わたしには解決できない問題や不可能な状況などないのです」と語られたのでした。

そして、たった一言で、イエスキリストは不可能を可能に変えられたのです。

「イエスは、…、汚れた霊をしかって言われた。『おしとつんぼの霊。わたしが、おまえに命じる。この子から出て行きなさい。二度と入ってはいけない』」(二十五節)

その時、少年は地に倒れ、死んだようになりました。聖書はこの続きを、「イエスは、彼の手を取って起こされた。するとその子は立ち上がった」(二十七節)と記しています。

少年の喜びはどれほどであったことでしょうか。解放された少年は父親のところへ駆け寄り、抱きついたのでないでしょうか。父親は驚喜したことでしょう。

神様はすべてを修復されたのです。

なぜ聖霊さまは、マルコにこの物語を福音書に書かせたのでしょうか？「不可能に思える状況に子どもたちがいても、神を信頼すれば救われる」とすべての親に神様は教えたいのだと思います。

「わたしは、どんなことでも、どんな人でも修復することができるとも、あなたが心からわたしを信じるなら、どんなことでもわたしは可能にする」と、主は仰っています。

今日、多くクリスチャンの親は、悪魔の力の支配下にある子どもたちのために苦しんでいます。

この教会の信徒にも、バスに乗って、州北部にある刑務所に息子を会いに行く母親が何人もいます。彼女たちは、かつては優しい子であった息子を、厚いガラスの向こう側に見なくてはならないという苦しみを体験しています。

何らかの理由で息子は麻薬を知り、薬物を買うために強盗をしたのです。今、息子は刑務所で以前にも増して心を頑なにしています。何年も息子のために祈ってきた母親は、「ここにきて希望を失いつつあります。もはや息子が変わることはありません」と思い始めるのです。

また、娘たちが麻薬に走るなどとは夢にも思わなかった父親たちもいます。娘が悪いグループとつきあい始めます。彼女は反抗的になり、弟や妹たちへの悪い影響を避けるために、父は彼女に家から出て行くように命じます。家を追い出された娘はますます悪くなり、今では、麻薬を買うために、身体を売っています。父親は、夜になると娘のことを思って涙を流します。愛する娘を永遠に失ってしまったと彼は信じてしまっているのです。

麻薬中毒の息子をスラム街に探しに行った父親を私は知っています。彼は聞き廻って、ようやくある麻薬の売人に麻薬中毒者の溜まり場を教えてもらいます。その場所に足を踏み入れた時、彼は息子の抜け殻を見ました。少年の身体は麻薬で骨だけになっていました。「家に帰ろう」と父が言ったときも、息子は父の目も見ないで、一言、「出て行ってくれ、これが本当の俺なんだ」と口にしただけでした。

悲しみの涙に暮れた父親は、そこを出て行きました。彼は希望をまったく失い、苦しみながら、「あそこにいるのは私の息子だ。あの子は死んでいく。なのに、私の助けを拒んでいる！」と心の中で叫びます。

これらの親に対して、悪魔は、「お前の子どもにはもはや希望はない。お前の子どもの問題は決して解決しないのだ」と言います。この強力な嘘で、サタンは神でも彼らを助けることはできないのだと、親に信じさせているのです。

あなたは今、未信者のご主人に希望はなく、彼が救われることなど絶対にはないと思っているかもしれません。また、あなたは毎夜飲みに出かけて行く奥さんに對して諦めているかもしれません。

しかし、誰も、神様が取り戻せないほど遠くへは行つてはいけません。

今日の多くのクリスチャンの夫婦は次のように告白します。「私は何年も私の夫(妻)のために祈ってきました。そしてある日私が諦め、希望を捨てそうになったとき、神様は私の愛する人を解放し救ってくださいましたのです」。

私たちは誰のことも決して諦めてはいけません。なぜなら、神様に不可能はないからです。あなたが「死んだ」と諦めているものすべてに、神様は命を戻すことができます。

マルコ五章は、「娘をどうしても癒してほしい」と必死の思いでイエスさまに頼みに来た会堂司ヤイロの話を伝えています。

十二才の少女は死の瀬戸際にいました。「家に来て、娘に手をおいでください」と、ヤイロはキリストに懇願しました。イエスさまはこれを承知されましたが、その途中で、長血を煩っている女を癒されました(この女性は主の衣を触っただけで癒されたのです)。イエスさまがそこにおられたとき、ヤイロの使いの者が悲しい報せを持ってきました。ヤイロの娘はもう死んでしまったと伝えたのです。その使いは会堂司に言いました。

「あなたのお嬢さんは亡くなりました。なぜ、このうえ先生を煩わすことがありましょう」(三十五節)

ヤイロの心は悲しみでいっぱいでした。彼はこう思ったのです。「もし私たちがイエスさまと一緒にもう少し早く着いていたら…でももう遅い。私の娘は死んでしまったのだ！」。

しかしイエスさまは次のように言われたのです。

「恐れなさい、ただ信じていなさい」(三十六節)

彼ら一行がヤイロの家に近づいたとき、家の方からは悲しみと嘆きの声が聞こえてきました。

ヤイロの家族と隣人たちでした。何と
いう対照でしょう。そこには人となられ
た神、宇宙万物の造り主、私たちの想
像をはるかに超える力を持つお方がいて、
そのお方の前では嘆き悲しんでいる人々
がいたのです。

言い換えれば、彼らは、「神様は、希
望をつなぐことができる限りは、私たち
を助けることができます。しかし、死
んでしまった以上、主に助けを求める必
要はもうありません。神であっても、こ
のような状況を回復することはできませ
ん」と証していたことになりました。

現在、どれほどのクリスチャンが、「自
分の抱えている問題には解決の道はない」
と言って、神様に助けを求めるのを止め
てしまっていることでしょうか。

多くの人は、自分たちの人生の何かが
死ぬまでは、神様を信頼します。

私がここで言っているのは人の死のことで
はありません。結婚生活の崩壊、人間
関係の断絶、希望の幻滅、愛する人の
救いに対する絶望など、皆さんがもはや
修復したり、変えたり、回復したりす
ることが不可能だと思っていることを指し
ているのです。

イエスさまはこの不信仰を責められ、ヤ
イロの家で泣いている人々に告げられまし
た。

**「なぜ取り乱して、泣くのですか。
子どもは死んだのではない。眠ってい
るのです」(三十九節)**

「この状況はあなた方の想像しているよ
うなものではない。あなた方は希望がまっ
たくないと思っている。しかし、私は修
復を宣言する！」と主は言われたので
す。それから、少女の部屋に行き、わ
ずかな言葉がかけただけで、少女を生
き返らせたのです。

**「すると、少女はすぐさま起き上が
り、歩き始めた」(四十二節)**

なぜ聖霊さまはこの話をマルコの福音書
に含まれたのでしょうか。私たちに、「神
様にとつては、『死にすぎている』ものや、
『遠すぎる』ものなどは何も無い」のだ、
ということを教えるためではないでしょ
うか。

主は私たちに、「わたしを信頼してあ
なたの問題の解決を願いなさい。わたし
には遅すぎることはないのだ」と言ってお
られるのです。

事実、「神様にはこの問題は解決でき
ない」と言うとき、私たちは神を嘘つき
と呼んでいるのです。

**「…神を信じない者は、神を偽り者
とするのです」(第一ヨハネ五章十節)**

皆さんは、ヤイロの家族やその友人た
ちのように座って、現状がいかに絶望的
かを話しているでしょうか。もし、ただ、
「神様は不可能を可能にされる方であ
る」と告白しないで、ただ嘆き心配して
いるなら、あなたは世に、「神は嘘つきで
ある」と言っているのです。

イエスさまの一言だけで、死んだ者が
命を吹き返すのです。私たちの人生で、
死んでいるように見えるものを、神はたっ
た一言で回復できます。



K・Jさん

あなたはお金がなくて支払いができな
いのですか。主の弟子たちも同じだった
のです。そして主はそれをたった一言で
解決したのです。

税金の納期が来たとき、イエスさまと
弟子たちはお金がありませんでした。
どのようにして主はそれを解決され
たのでしょうか。主はペテロに魚を釣って来
るよう言いました。ペテロが最初に釣った
魚の口に、ひとつの硬貨が入っているから、
その硬貨で税金を納めるようにと言われ
たのです。

私にはその時、ペテロの脳裏をどんな思
いが過ぎったか想像できません。彼はきつ
と、「魚の口にお金だつて？それは見物
だ。これまで長年漁師をしてきて、魚の
口には虫や釣り針、水草なんかが入って
はいても、硬貨が入っていたことなんか一
度もない」と思ったに違いありません。

ところが、ペテロが最初に魚を釣り上げ
てその口を開いてみると、何と、そこ
には光る硬貨が入っていました。イエスさま
が言われた通り、その金額は税金を払
うのに十分でした。

聖霊さまはなぜ、福音の著者にこの話
を記録するようにされたのでしょうか？
なぜイエスさまはこの状況を奇跡によって
解決されたのでしょうか？なぜ献金を募

るとか、弟子たちを日雇いに行かせたりして、税金を払うための金額を準備させなかったのでしょうか？

「私たちのために、イエスさまは不可能を可能にしてください」と信じる事ができるように、この奇跡を行われたのだと信じます。どんなお金の欠乏も、家庭の問題も、圧倒されそうな状況も、主は解決することができるのです。

主は、エリヤを鳥の運ぶパンで養ないました。やもめの穀物樽を干ばつの間中絶やさないようにしました。別の寡婦の壺に油を与えて、借金取りから救い出しました。また、数匹の魚と幾つかのパンから、五千人もの人々に食べさせました。

主は、「ご自分がその同じ神であると私たちに知らしめているのです。」

主は、私たちの人生において、時に奇跡だけが解決をもたらすこともご存知なのです。また、どのような状況であっても、主は私たちのために不可能に見えることを可能にすることができると言っています。

でも、私たちは聖書を読んだだけで、神様は当然に奇跡を行ってくださいと言信することもありません。

二十代の若い牧師の頃、私はそんなことをしたことがあります。私は福音の働きのために良い案だと思っていました。その案を実行に移す前に主に相談しました。

その結果、私は返す見込みのない五千ドルの借金を抱え込んでしまいました（今で言つと、二万五千ドル程です）。

必死の思いで、「神はあなたの必要をすべて満たしてください」という色々な聖句を見つけて、片っ端からそれを宣言しました。

ある日、美しい声がこう私に語りました。「デイビッド、明日の正午にイエスター通りに行き、その左側を歩きなさい。ある男が五千ドル入った封筒を持ってあなたに近づいてくるだろう。その男は私の使いだ。彼はその封筒をあなたに手渡すだろう。」

「主よ、感謝します！あなたは本当に真実な方です！」と心の中で言いました。

翌日、イエスター通りに行き、その男が現れるのを待ちました。この町は人口一二〇〇人しかいない小さな町でしたから、誰も通りを歩いてはいませんでした。みんな日中は働いていたのです。ですから長い間、私は誰も目にすることはありませんでした。

私はそこで数時間の間、「主よ、彼はどこにいるのですか？」と心の中で問いながら待っていたのです。実際ある男が近づいてきたのですが、彼はタバコをふかして、天使でないことは明白でした。

私は失意の中で家路につきました。そして祈りました。「なぜ私はこのように惑わされたのでしょうか？でも、どうしたらいいのでしょうか？お父さま、あなたに信頼しなかったことを赦してください。この一件のすべてをあなたの御手にお委ねします。」

数日後、教会のある男性から電話がありました。「あなたの必要について耳にしたのですが、力になってくれそうな人を知っています。彼は他の町に住むクリスチャンの銀行家です。電話をしてみてもいいかがですか？」

私はこの銀行家に連絡をしました。すると、彼は当時聞いたこともなかったことを、私のためにしてくれたのです。何と、無担保無利息で五千ドルのローンを組んでくれました。そして、「毎月五十ドルずつ返してくれたら結構です」と言ってくれたのです。

神様は、私の置かれていた状況を修復してくださいました。このことを通して、

主はひとつのことを語ってくださいました。

「デイビッド、私には天使を送って、あのお金を与えることもできたのだ。でも、私はあなたを愛するがゆえに、あなたに学んでほしかったのだ。もし、このことを学ばなかったなら、あなたはまた自分の愚かな判断で、十万ドルの借金を抱え込むことになったであろう。」

私は、たとえ主が不可能を可能に変えてくださる方だと信じていようとも、自分の無責任な選択のために、御使いが突如現れてくれることを期待することはできないことを学んだのです。

ここに神様の最も偉大な御業があります。主は困難な状況を解決するのみならず、罪の問題も解決してくださいます。

最近、私はある囚人から、心の引き裂かれるような手紙を受け取りました。彼はこう書いていました。



K・Jさん

「デイビッド牧師、私は性的変質者で、そのせいで刑務所にいます。私は生まれつきではなく、後天的に『うつ』なのです。私は三度も結婚して、四人の子供がいます。」

実際、私は変質的なものは何でも好きです。あなたの想像しうるものは、恐らく私はみんな試しているでしょう。私はこれを止めたいのですが、止めることができません。

ある時タバコを止めましたが、それは大したことではありませんでした。ポルノも時には止めることができます。

私は神様の癒しを本当に信じています。何度も懇願し、叫んで助けを求めました。でも、この性倒錯から逃げ出す突破口を見つけることができないのです。

主の御心を行いたいという思いは、いつも心にあります。でも、いつもその思いを押しやっつて、情欲に溺れてしまうのです。私は神様に『もう二度としない』と言いますが、必ずまた戻ってしまうのです。

主がもう私にうんざりしておられると思つと心が痛いのです。

礼拝堂に行くとき、自分には二つの顔があるのだと思います。ここには、私

良いアドバイスをしたからと言って、私を尊敬してくれる人がいます。でも、私自身それが守れないでいるのです。

私はピアノを弾いて礼拝堂で歌も歌います。でも、自分がおかしいのが分かっているのです、どうにも間違っていると感

また誰か罪のない人を犠牲にするくらいなら、死んだ方がましなのです。でも、地獄にも行きたくないです。私は神様に仕え、主の愛が欲しいのです。私はこんなことをしているのが嫌なのに、同時にそれを好んでいるのです。どうしたらいいのかが分かりません」。

私はこの青年に、「希望を捨ててはいけない、神様はあなたの倒錯した思考を直すことがおできになる、主はあなたに癒しをもたらすことを願っておられる」と言ったのです。

その後しばらくして、この青年は完全に解放され、癒されました。彼は今、私の教会で牧師として奉仕しています。

私はある時期、同性愛者が変わえられることについて、諦めてしまったことがあります。なぜなら、彼らの内に癒しが起こることは稀だったからです。

私たちのミニストリーでは、同性愛者の人たちのためのホームを開設していました。でも、それは悲しい結果に終わりました。麻薬中毒やアルコール中毒の解放プログラムは上手くいきましたが、同性愛者に関しては勝利を見ることは少なかったのです。

主は私のもとに、悪魔の縛りから解放された同性愛の人たちの証を贈ってくださいました。また、最悪の性的倒錯嗜好から解放された人々についての報せも受けるようになりました。

現在、私はすべての人たちに言うことができます。特に、イエスさまの深く心震わす愛に触れた人に言います。

「あなたが自由になりたいのなら、神様はあなたがどんな葛藤を抱えていようと、解決を与えてくださいます。主はあなたの悪癖を打ち砕き、自由にすることがおできになります」。

あなたの人生において、神様にできないことは何も無い、ということ信じなくてはなりません。神様が打ち砕くことのできない敵の畏は何もないのです。

親愛なる聖徒の皆さん、信仰を手放してはいけません。

神様が必ずあなたを変え、あなたの人生を変化させてくださることを信じるのです。

もし主が、困窮したやもめに必要を備えてくださったのなら、悪霊に憑かれた少年を解放してくださったのなら、ヤイロの娘を癒してくださったのなら、あなたのためにも解決を与えてくださいませ。

私たちの神は、どんなことでも修復することができるのです。

☆参考：

<https://www.youtube.com/watch?v=LNjwalfj0R8>

(おわり)



風っ子さん

理事長の奥さんによる

育児日記

最近のー君の面白かった行動と言えば、肌寒い日に幼稚園に向かう途中、指を口に入れていたの?」「何で指を口に入れてるの?」と聞くと、「だってくちのなかつてあつたかいじゃん」と言ったり、同じく肌寒い日の朝、着替えている時に、裸になつたまま、掃除機から出る排気の前に座つて温まつていたり、ー君が牛乳をしぼした時に小言を言いそうになつたら、「ようちえんのせんせいはおこらなんだよ」と言われたりしました。

また、「ありがとう」と言わざるを得ない出来事もありました。お菓子を食べながら、違う部屋にいる私のところに来た時に、座つて食べるよう促すと、「ママに愛したかったの」と純粋に言われたり、一緒にお風呂に入った時にボディソープをつけた。パパの垢すりでお風呂掃除をした後に、その垢すりです私の背中を洗ってくれた時です。垢すりの時は、「あつありがとう……」と答えました! (笑)



おにいちゃんの
まね♪

長女のKちゃんは、言われてもいないのに、みんなにお菓子を配つたりと優しく大人しい性格ですが、その反面、お兄ちゃんの真似をして変な顔もよくしています。
次女のRちゃんは、目を離れた隙に靴を舐めていた!?!いやつ舐めようとしていました!そしてハイハイの前に、もう掴まり立ちをしています。

塀の中のたより

ー受刑者からのお手紙ー

得られないのは、
求めていないから

Y・Tさん

さて、既に存知かと思いますが、九月六日未明に北海道胆振地方を震源とする大地震が発生し、四十一名もの尊い命が失われ、多くの人たちが被災しました。前日には、今年一番の大型台風が通過したばかりだったので、それらの被害は目を覆うものでした。

当所も震度四くらいの揺れがあつたのですが、特に被害もなく、停電についても、自家発電設備のおかげで、何一つ

不自由のない日常を過ごしました。一方で、社会に目を移せば、住む家を失い、食べるものにも事欠き、生活水すらも無い状態の中で不安な日々を過ごしているという現実、胸が締め付けられるようでした。誰よりも罪深い人間である私たちが、三度の食事をいただき、暖かな布団で眠りにつくことに罪悪感を覚え、ただただ申し訳ないという自責の念に苛まれるほどでした。

これから厳しい冬がやってくる北海道において、仮設住宅での生活は、二重の意味で厳しいものになることが予想されます。しかし私は思うのです。神様の憐れみは尽きることはなく、願う人には必ず新たな恵みが与えられるということ。そして、災害を受けた人々を顧み、再び立ち上がる力を授けてくださるということ。

この塀の中で私たちにできることは微々たるものですが、一日も早い復旧を祈り、災害を受けた人々の苦しみを少しでも軽くするように、節電・節水に努力したいと思います。

私は、今回の震災を目の当たりにして、本当の幸せはどこにあるのか考えてみました。全ての人々が幸せを望み、また、その幸せを追い求めています。しかし、そ

の幸せを得ることができるのは、ごくわずかな限られた人たちです。

なぜならば、多くの人達は幸せのありかを知らずに、見当違いのところを探しているからなのだと思います。街に出て目を向けると、大勢の人が歩いていますが、皆それぞれの目的があつてそれを追い求めているのだと思います。すなわち、幸せを探しているのです。

例えば、宝石店のショーウィンドウに目を向けると、目を見張るような素晴らしい品々が綺麗にディスプレイされています。ある人は、それを手に入れて幸せな気分を味わいたいと感じているかもしれませんが。このように、あらゆる場所で幸せは求められています。

しかし、全ての人が皆、人生の終わりを迎える時に、「ああ、素晴らしい人生だった！」と振り返ることができるでしょうか。

多くの人たちは、富や宝を得るための努力を惜しみませんが、それを手に入れた途端、もはやそれでは満足できなくなり、さらに新しいものを得ようとまた努力を始めます。

どんなに多くの宝物を手に入れても、どんなに富を積んでも満足できずに、もっと違うものが欲しくなるのです。しかし、仮にたくさんの財産を築いたとしても、

全てを残して逝かなければならないのです。それでは、今まで一生をかけて集めた物とは、一体何だったのでしょうか。

人生とは、誘惑の連続で、快樂を求め人たちが列をなして入っていきます。

私は、この楽しさが永遠のものであるかのように錯覚していましたが、年を取って人生には限りがあるのだと気づいて、初めて虚しさに襲われ、愕然としたのです。あるいは、偉くなりたい、有名になりたいなどと考えたものですが、名声などというものは生きている間だけのものであつて、永遠に続くものではありません。もしも、生前に残した富や榮譽で人の価値が決まり、天国での権利を得るのだとしたら、不幸な人生を歩んだ人の苦しみは永遠のものになってしまいます。

私は、信仰を持つてから、人間の究極の願い、望みとは、本当の自分を見つげること、もつと靈的な自分を目指すことだと考えるようになりました。それは、物質的に恵まれることや、快樂に溺れることではありません。

幸せは、目で見ることでも手で触れることもできませんが、それは確かな存在であつて、永遠に持続する素晴らしいものに違いありません。幸せは、誰にでも必ず手に入れることのできるものである

はずです。もし得られないのなら、それは求めていないからであり、求めても得られないのだとしたら、それは間違つた動機で求めているからに違いありません。幸せは、外に求めるのではなく、自分自身の生き方の中に求めていくものなのです。

多くの出所者が

また戻ってくる

Kさん

皆様、今年の夏の酷暑の疲れはないでしょうか。K刑務所も、やっとやっと涼しくなりました。七月の終わりには、三十九度八分もありました。懲役は強制労働のため、普通に作業していました。自分の工場には五十人以上いますが、皆、強い人たちばかりで、普通に生活していました。

平成三十年は、色々なことがあり、大阪北部地震、各地での大雨などなど、

大きな自然災害がありました。また、オウム真理教の十三人の確定死刑囚の死刑執行がありました。

自分の中で一番の事件は、六月二十八日に、K刑務所で六百人くらいの人たちが食中毒になつたことです。自分も、半日で十一回トイレに入りました。五十年間、一度も病氣などになつたことが無かつたので、かなりの恐怖でした。未だに、何が食中毒の原因であつたのかも、自分たちには知らされていません。あの時は、六人で生活していたのですが、ずっと六人ともトイレばかりでした。トイレが空くことはなかつたです。トイレの水も、使用しすぎて、水が出なくなりました。それはそれで不安になりましたね。結局、何も処置されないうまま終わりました。刑務所で生活していると、感染病等が一番の恐怖です。で、食中毒が一番のニュースですね。



河童さん

最近のニュースでは、「今までに経験したことのない」という言葉をよく耳にします。かなり地球がやばくなっていますね。先日の台風なんか、今まで見たことのないような風でした。これまでの人生で「普通」がなくなったように思います。今の生活は、刑務所の中で、衣食住は守られています。でも、出所すれば、いつ災害に直面するかわかりません。

これまでの人生では、「自分は大丈夫」と思って生活していましたが、やはり、これからは、「自分も自然災害に遭うかも」と思っていなければ、と思います。今の生活は、全て他人がやってくれますから、はつきり言っていて楽しい生活です。

話は変わりますが、六年くらい前、七人の徳役と雑居生活をしていました。今年に入ってから情報は、あの時部屋で生活していた六人の人が、また刑務所に入っているとの話で、何とも言葉にはできません。

私はここに来て六年ちよつとになるので、すが、かなりの人を見送ってきました。が、二回目の人もかなり目になっています。定職に就けば、とも思うのですが、なかなか難しいのじゃないかな。

五年間刑務所で生活して、仮釈放でこの前社会に帰った人は、一ヶ月で覚醒剤

の売買で捕まっています。また長い懲役生活になります。その人は、「これを最後にするよ」と言っていました。また同じ覚醒剤で捕まりましたね。

頑張れば、覚醒剤の売買をしなくても、仕事はあると思います。なぜ、また同じことをするのでしょうか。聖書には、「求めよ、さらば開かれん」とあります。いくら仮釈前の教育を受けても、覚醒剤教育を受けても、同じでは？と思っ

ています。自分は、薬をしたことがないので、その人たちの気持ちは全く理解できません。他人の事を言っている、自分の人生のことで頭がいっぱいなのですが、他人を見ると、自分は十年の刑期なのですが、二回目、三回目に見る人たちは、自分の十年よりも大変な人生では？と思っ



NARITAさん

自分自身と環境を 受け入れる

一兵さん

幸せをつかんで人生を有意義に生きるには、自分のいる環境と自分自身をありのままに受け入れることが大切です。

「状況さえ違っていれば」と言い訳的に思うのでは、いつまでたっても不幸せのままです。環境を望み通りにしたがるのではなく、あるがままの環境を受け入れることを学ばないといけません。

「雨さえ降っていなければ気分がいいのになあ」と、以前の私はそう考えてばかりでした。しかし、幸せな人というのは、その雨をも受け入れて楽しく生きる人のことなんだと、文通者との手紙のやり取りで学びました。

「雨が降っている、という現実をかえられませんが、自分がそれをどう受け止める、どう対応するかは変えられます。この視点の違いを認識しておくことはとても大切です。私たちが、「もっと早く時間が経てばいいのに」とか、「もっとおいしい食事だったらいいのに」と考えるのは、

自分が成長するのを自ら妨げているようなものだと思います。

今ある状態を変えることはできない。でも、今ここで長所も短所もひっくり返して自分についての全てを受け入れることはできます。そうすることで、なりたい自分になるための第一歩を踏み出すことができると思います。

私の経験から学んだことですが、今ここで自分を受け入れれば、少しくらい挫折を味わっても、そう簡単には目標から逸れることはありません。

深呼吸のすすめ

(同じく、) 一兵さん

皆様は、深呼吸をしていますか？人は、自分では正しく呼吸をしているように思っていますが、それは必ずしもそうではありません。ほとんどの人の呼吸は浅く、これが日々のストレスに拍車をかけている可能性だってありえるんです。

「この私がそうでした。人は、心が乱れると、短く、速い呼吸をする傾向があります。」

リラックスする呼吸法は、長くて深い呼吸をすることです。私は、この方法を知人に教わり、エネルギーのレベルを高めるのにも効果的でした。少し疲れたと感じた時、すぐにできる方法なので、皆様にもオススメします。

手順は次の通りです。

一、五秒か六秒数えるまで息を吸う。長いと思う場合は、秒数を減らしても大丈夫です。

二、息を吸った時の四倍の秒数間、息を止める。

三、息を吸った時の二倍の秒数間、息を吐く。

例えば、五秒吸ったら、二十秒息を止め、十秒で吐くのです。

この練習を五〜十回繰り返して、一日に二回ほどやれば、必ず成果を実感できるはずですよ。お陰様で、私は毎日とてもリラックスして過ごすことができ、運動時でも、リラックスした分、集中できるようになりました。

朝早く目が覚めた時、夜寝就くまでの間にでも始めてみてはいかがでしょうか。

男の修行

T・Iさん

皆様、日々のお務めご苦労様です。暑い日が続きますが、夏バテ等で体を壊されていないでしょうか？

さて、本題に入らせていただきますが、太平洋戦争の連合艦隊司令長官であり、最終階級は元帥海軍大将であった山本五十六の名言「男の修行」(苦しいこともあるだろう。二い度いこともあるだろう。不満なこともあるだろう。腹の立つこともあるだろう。泣き度いこともあるだろう。これらをじつとこらえてゆくの男の修行である。)は、自分が子供ころから絶えずノートに書かされ、頭に入れて生きてきたものです。が、なかなかその通りには生きられず、現在も施設にて面倒を見てもらっている身であります。

「男の修行」とは、忍耐・努力・根性で貫き通すのだと最近改めて感じています。このようなところで生活していますと、どうしても対人関係で揉めてしまいがちですが、自分は、今の工場へ来てから、自分自身が変わり、我慢や努力、忍耐をもって実践していけば人も変わってくれることを学び、そして、全てのことに対して感謝をして生活できるようになりました。

自分も、今に至るまでには色々なことがありました。昨年の年明け早々には、増刑事件を起こして刑期を延ばしてしまい、今年にも、罰を受けたりと…。ですので、なおさら男の修行を積んでいかなければいけない！と、深く心から思っ実行し、社会へと旅立った時、厳しい世の中で通用するような人間、「男」になりたいのです。

社会は自分が思っている以上に厳しいと予想します。苦しいこと、腹の立つこと、泣きたいこと、言いたいこと、…色々ありますが、まずはそれらをぐっとこらえ、耐え忍んでいくところに男の修行の意味、そして人として改心の道へと進める(又テップアップ)と考えます。

自分もあと半年ほどで出所となりますが、絶えず男の修行の道を歩き、一歩

ずつ着実に学び、決して人様に対して牙をむかず、いつも笑顔(スマイル)を忘れず、人に対して、「親しき仲にも礼儀あり」を忘れずに日々を過していきたいのです。与えられた貴重な時間を大切に使い、規範意識を身につけながら、今度こそは社会に順応できる人間になろうと思っっています。

最後に、この文章が所内誌に載り、工場の仲間が「良かったよ、感動した!」と言ってくれました。中には、「あの文のように生きていけば、ムシヨに二度と入らないよね!」と言ってくれた初老の方がいました。色んな人が目を通してくれて、「良かったよ!」と声を掛けてくれてとても嬉しいです。



K・Jさん

川柳

(同じく) T・Iさん

犯罪から抜け出せない

S・Mさん

して、店と家も失くしてしまい、路頭に迷った挙句、生きがいもなく、生きる気力さえ失ってしまい、喪失の中で生きているようになり、死ぬことばかりを考えておりました。

しかし、なかなか死ぬこともできず、かといって今更夢を見ることすらなく……。

今は、無理に努力をせず、楽しく笑って死ぬるようになんて好きなことをしようと覚悟を決めて、残りの人生、悔いのないように毎日楽しみを見つけて生活しています。

社会へ帰っても、一生生活していけるだけの金も残っておりませんので、安心なのですが、なぜか酒を飲むとどうしても気が大きくなりすぎて、金などほしくもないのにスリルを味わいたくて、犯罪を繰り返しては刑務所へ逆戻りです。酒をやめたいのですが、なかなかやめられず、一度飲むと切らすことなく捕まるまで……朝から次の朝まで飲んでばかりで、気が付けば悪行をしているのです。

もう半分あきらめています。そんな身体もメンタル面もボロボロなので、人生を反省する意味でも、神に誓ってみました。このような馬鹿な生き方しかできない私を救っていただきたく、お便りをお願いします。

現実から目を
そらすために薬物へ

Iさん

私は今回、覚醒剤取締法違反で捕まり、裁判で約一年半の判決を受けて、現在、T刑務所で生活を送っています。

私は今年で二十九になります。中学校卒業後から働き始めましたが、少年院に二度、刑務所に今回で四回目と、保護者会で生活を送ることができておらず、本当にこのままではいけない、真面目に働いて生活を送っていきたくて強く強く思っています。

今までは全て無銭飲食や窃盗で捕まっていました。今回、薬に手を出してしまつた理由として、今後自分自身の生活を考えた時に、どうしても先が見えず、現実から目をそらすために使用してしまいました。

現時点で、私には頼れる親や兄弟もおらず、何一つ決まっていることはありません。父は、私が十歳の時に亡くなり、その後すぐ母は蒸発してしまいました。兄弟とは、私が初めて少年院に入った十七



河童さん

・頑張るが 出る杭打たれ 難しき
・塀の中 黙し語らず 事故は無し
・塀の中 見ざる言わざる 事故は無し

・我慢する 何も言わない 空のよう

・気がつけば 黄泉からの使者 近づきし

・神様も 絶対汗を かいている

私は、恥ずかしながら受刑生活を送るのは此度で十四度目となり、ここまで来たら、生涯を塀の中で暮らすことになるのではと不安を感じております。

私は人生の半分を施設の中で生活しており、社会人として健全な生活を送つたことはほとんど無く、十歳の頃から、現在六十近くになりますが、五十年ほどを自分一人で生きて参りました。と申しましても、その間に二度の結婚と死別を体験し、親とも死別しており、兄弟がおりますが、交流も少なく、天涯孤独のつもりで生きております。

十歳の時より、学費も生活費も誰からも援助されることなく、非行から犯罪を重ねて、それでも何不自由なく思い通りに生きてきました。

一度目に結婚した時には、バブル全盛期の頃でしたので、金にも余裕があり、自営業を始めて幸せな日々を送っていましたが、阪神大震災で嫁と娘を亡く

の時から一切連絡を取り合っておらず、ずっと一人の状態です。

地元には十六までいましたが、それ以降はいろんな場所をふらふらしていました。ちゃんと働き、友人と呼べる人や頼れる人がいれば良かったのですが、私にはそんな人は誰一人としておらず、どうしていい分からない状況です。

淋しい対応

Kさん

ところで、私の目のことですが、平成二十五年に手術をしてから、今では左目、右目ともに視力が低くなっており、テレビも見づらく、本を読むのにも、手術当時に使用していた老眼鏡よりかなり度数を上げています。

私の両目ともにボーっとしており、部屋の中でも人の顔が見えず、辞典も字が小さすぎて老眼でも見えず、メガネ屋も、「何で手術したの?よく見えていたのに…」と言っていました。

私は、平成二十四年に、「目の見え方がおかしいので診察してください」と申し出たところ、眼科医が「あ、白内障ですね。手術しましょう」と言ったのですが、やはりあまりにもおかしいので、「とにかくもう一度見てください」と頼むと、「医者に診てもらって手術するようになったのだから待ちなさい」とのことばかり言われ、診てくれず…。

私は工場の主任に、「とにかくおかしいので、何とか診てくれるよう言ってください」と言ったところ、「よし、俺が言ってるので、もう一度願箋を書きなさい」とのことでしたので、その通り願箋を出しました。すると、医務の方より、「医務と処遇は別だから、処遇の者に言いな」と言われました。今は弁護士もついてくれています。この医務の者に、「このようなくことを言いましたね」と聞いても、「さあどうだったかなあ」とのことです。これがM刑務所の医務です。

また、願箋にて診察のことを申し出たところ、「目の毛細血管が切れているので、もう一生治らない」と言われました。私が「目がおかしいので診察してください」と最初に言った時は、「どのようにおかしいの?」と聞くこともせずに「白内障ですわ」と言われたのです。

「毛細血管が切れる前に何とかならな

かったのか?」と言ったところ、「あなたが申し出た時には切れていた」と、医務部長より返事がありました。

目は誰にとつても大事なものです。私が「目がおかしい」と申し出た時には、毛細血管のことは分かっていたはずだ、と思うのですが…。

今、法テラスの弁護士がついていますが、「私は目の手術のことで弁護士を引き受けただであつて、それ以外のことは知りません」と言っています。

人間とはこのようなものでしょうか?金がなかったら、誰も本気で相手してくれないのかな…。これが世の中のかな、淋しいな…と感じます。



風っ子さん

運動に出たことで、
投薬願箋をもらえなかった

M・Kさん

私は持病の偏頭痛持ちで、また、事故の後遺症のために、足首の骨が二本、内側に出ておりますので、長時間畳の上にかかとを下にして座っておりますと痛いので、(正座がきちんとできていないのと)で、今回、懲罰となりました。

八月七日に、調査の舎房担当、正担当さんに、朝食後、投薬願箋をいただくように申し出ましたところ、「後で言え」と言われたので、その後、運動時間となりまして、運動に出て戻ってきた後、再び投薬願箋を申し出ました。

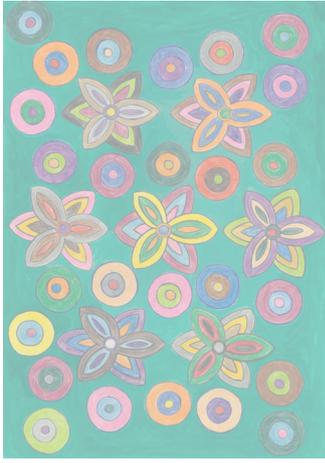
すると、舎房の正担当さんから、「運動に出たから、投薬願箋は出せない」と言われました。先週、私は医務回診につけていただいていたのですが、「運動に出た」ということで、正担当さんから医務担当さんに連絡があり、「この日出されるはずだった痛み止めの薬、鼻炎の薬は出ませんでした。」

その後、懲罰となり、懲罰舎房の部屋に行きまして、懲罰舎房の正担当さんに投薬願箋を申し出ましたが、出してもらえず、挙句の果て、この日から盆休みの間、八月十七日の朝食後に解罰と工場配役言い渡しがあつて工場に行くまで、投薬願箋は出ませんでした。

誠に、運動に出たために投薬願箋は出ず、持病の片頭痛、足首の痛み、アレルギー性鼻炎の薬も出ませんでした。

偏頭痛の痛みは、就寝後、夜中も痛いのので、夜中に報知器を何度も押そうとしましたが、そのことよつてまた以前のように保護房に入れられることが怖くて、結局、報知器を押さずにいました。

医務のことで救済の方法は、ございませんでしょうか。



河童さん

出所を控えて

K・Kさん

僕の出所も近づき、十一月には社会に戻れます。

毎月送られてきた百万人の福音を読み、キリストの教えに触れたことで、イエス様・神様の存在に気付きました。それ以前と以後では、僕の心の中がまったく変わりました。

以前は、毎日が嫌で嫌で仕方なかった。人生で上手くいかないことはかり、世の中を憎み、他人を恨み、いつもイライラ生きていました。この精神状況から抜け出すことが、自分の力ではとても解消できずについて、自己嫌悪に陥っていました。それがこの一年で、消えてしまいました。僕の中のイライラという病が、毎朝晩のちよつとした神様へのお祈りで治っていました。

不思議ですね。それまではメチャクチャな受刑生活でした。罰ばかり受けて、工場にも出役せずにいたのですが、今は刑務官、同囚と揉めることなく、誰に

対しても怒ることなく、イライラせずに平穏な生活を送っています。僕の人生において、しかもこの悪環境の中、こんな平穏な気持ちになれるなど思いませんでした。

本当に自分が一番びつくりしています。何も環境は変わっていないのに、目に映るモノ、心に受けるモノが全く違つて見えています。今まで同じモノを見てイライラしていたのが何だったのか。これも一つの恵みなのでしょうか。僕の中の奇跡体験です。

皆さんの活動が私の中でこのように生きていることを報告します。まもなく出所になるので、僕も外の社会で、人のためになれる人間になります。

待ち望め主を
確々しくあれ
心を強くせよ

T・Tさん

理事長の奥さんによる

Lovely DAYS

当事者の方の中には、入れ墨が入つていたり、強面な方がいるので、時折、事務所がやくざの事務所に見える時がある(笑)。

昔の悪行を話してくれるのだが、「女と喧嘩して思いっきり首を絞めたよ」と笑いながら言っているが、笑い事ではない。

Kさんは、逮捕状が出て捕まる前に元嫁と子供に会いに行こうとしたが、逃げられて、その腹いせに、騒いでいる酔っぱらいの他人をひっぱたき、その人の車とカードを奪い、そのカードで詐欺を行つたとか、裁判所から逃走したとか、本当に酷い。けれど、それまでの悪行を行うに至るまでの幼少期からの生い立ちも聞けるので、考えさせられることも多々ある。

そんな当事者とのシールドな触れ合いができるのも、マリアカフエの醍醐味だ。

看護師 中谷先生による

健康相談窓口

排尿障害について

こんにちは。秋雨が通り過ぎ、冬への季節へシフトしていますね。今年もあと二ヶ月、早いものです。こんな風に人生も通り過ぎていくのでしょうか。切なくなります。

今月は、排尿障害についてまとめてみました。年齢を重ねることで、排尿に絡む問題も出てきます。「自身に当てはまる症状はありませんか。」

排尿障害について、病態生理として説明させていただきます。

尿意を感じると、排尿中枢（尿がしたいと思う）の興奮が起り、骨盤神経（骨盤の中の神経）から、膀胱（尿をためておくところ）・尿道（尿が通る道）の筋肉に信号が伝達されます。そして、

膀胱の外側の排尿筋が収縮して、尿のストッパーとなる内尿道括約筋が緩んで排尿がされます。

排尿障害とは、排尿の過程が何らかの原因で障害された状態をいいます。

排尿障害には、膀胱に尿をためておくことのできない蓄尿障害と、膀胱から尿を出すことができない尿の排出障害、およびその両方が困難な蓄尿・尿排出障害があります。

主な排尿障害に、尿失禁、排尿困難（尿がでなくて苦労して出す状態）、頻尿（尿の回数が十回以上）、過活動膀胱（膀胱の中に少しでも尿が溜まると尿がしたいと思ってしまう状態）があります。

では、症状のチェックをしてみましょう（下記の表をご覧ください）。

この一週間の状態に当てはまる回答をそれぞれ一つずつ選んで、計四つの質問に対する回答の合計点数を計算してください。

もし、中等症、重症であれば、このスコア表を持参して、医務に相談してください。

治療として、以下の八つが挙げられます。優先順位の高いものから並べました。

- 一、原疾患の治療
- 二、排尿誘導
- 三、膀胱訓練
- 四、骨盤底筋訓練
- 五、薬物療法
- 六、間欠導尿
- 七、手術療法
- 八、尿道カテーテル留置

詳しい治療内容に関しては、次回お伝えさせていただきますと思います。



☆重症度判定☆

軽症：5点以下 中等症：6～11点 重症：12点以上

| 質問/点数 | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|-------------------------------------|------|-----------|--------|---------|--------|--------|
| 1. 朝起きてから寝るまでに、何回くらい尿をしましたか？ | 7回以下 | 8～14回 | 15回以上 | | | |
| 2. 夜寝てから朝起きるまでに、何回くらい尿をするために起きましたか？ | 0回 | 1回 | 2回 | 3回以上 | | |
| 3. 急に尿がしたくなり、我慢が難しいことがありましたか？ | なし | 週に1回より少ない | 週に1回以上 | 1日1回くらい | 1日2～4回 | 1日5回以上 |
| 4. 急に尿がしたくなり、我慢できずに尿を漏らすことがありましたか？ | なし | 週に1回より少ない | 週に1回以上 | 1日1回くらい | 1日2～4回 | 1日5回以上 |

お知らせ

☆社会の皆様へ☆

・マリアカフェへのご寄付（ファンド）について

いつもご支援くださり、本当にありがとうございます。さて、払込票でのご寄付と異なり、マリアカフェ運営のためのファンドへのご寄付は、銀行振り込みとなり、カナ氏名のみ表記ですので、どなたか特定できない場合がございます。その際、ささやかな御礼としてのプレゼント（獄POS・マリアコーヒー）をお贈りできないので、大変お手数ですが、ご一報くだされば幸いです。

・活動日記について

マザーハウスのブログ（裏表紙の左下にQRコードがございます）では、これまでマザーハウスたよりの「塀の中のとより」を中心にご紹介してきましたが、先日より、ボランティアスタッフが活動日記を書かせていただいております。たより発送やお手紙の返事など、マザーハウスの活動が皆様により具体的に伝わればいいな、と考えて始めました。ぜひご一読くださいませ。

☆受刑者の皆様へ☆

・獄中POSTシリーズについて

皆様、たくさんの絵画をお送りくださり、本当にありがとうございます！感謝です！！さて、獄POSでは、文字（書道など）の募集もしております。文字のご応募がなかなか無いので、現在作っている獄POS作品の文字の部分は、理事長直筆のものになっています（笑）。ということで、文字を送ろうかな…と考えている方、ぜひお願いいたします。

特に、横書きで書かれた短いみことば（書道風・引用箇所表示付き）を大募集中です！！

なお、文字や絵画を送ったのに、11月中旬を過ぎても連絡がない…という場合は、どなたの作品なのか特定できていない可能性がございますので、お便りいただけますと幸いです（事務所には不定期にボランティアの方がいらっしゃってお手紙の開封などを行うので、封筒と作品が別々になってしまう場合があります。現在は開封係を決めて改善いたしました。過去送っていただいた作品で作者不明のものがございます）。いつも事務局の不手際で皆さんに色々とお手数おかけして申し訳ございません。

・バースデーカードについて

お誕生日を教えてくださいました皆様、ありがとうございます。現在、一つ一つデータ登録をしているところです。

・フランス人男性との文通について

たくさんのご応募ありがとうございました。お相手のフランス人男性の方の意見も伺いながら、現在審査中です。

・お問合せのお手紙について

お送りしている資料に書いてあることについてのお問合わせが、最近特に多いです（「文通をするにはどうすれば良いですか」「フランスは会費を払わないと利用できないのですか」等）。理事長挨拶にもありましたが、同じようなご質問の対応に追われている状況です。改めて、入会時などにお送りした資料一式をよくお読みいただき、ご不明点を確認の上、お問合せくださいませ。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

・刑務所での処遇のご相談について

法務大臣が変わってしまったので、処遇等についてのご相談はこれまで通り、マザーハウスまでお願いいたします。

以上

ご寄付ありがとうございます！

8月16日～9月15日の寄付金
合計：305,869円
(内 愛のプリズム宣教基金：26,000円)

つばやき！

F 刑務所の職業訓練には、
暫定三類・五類、累犯の方
が他所から来ておりますが、
今まで、無期の方が来たこ
とは無いそうです。
(おたふくさん)



編集後記

こんにちは！お読みくださり、ありがとうございます。

今月号の扉の中のとよりでは、文中に刑務所のイニシャルが出ているものは、筆者の方のお名前はイニシャル一文字のみしております。

最近思うことの一つは、受刑中は熱心にとよりなどを読んでくださった方が、出所後は生活やお仕事に追われて、あまりたよりを読んでくれなくて寂しいなあと感じたりしています。

先日出所された、とても熱心なクリスチャンの当事者スタッフに、「カトリック新聞読みますか？」「この記事いいですよ！」と勧められても、お仕事で疲れているのか、生返事でした！笑

やはり、出所後いきなり社会の生活に慣れようとすると、それでいっぱいいっぱいになってしまい、他のことに心が回らないようです。。。

マリアカフェがそんな出所者の皆さんの一休みの場になれるといいな、そして願わくば、マリアカフェでゆったりしながら、久しぶりにたよりを読んでくれるといいな、と密かに思っています。笑

それでは、来月号もお楽しみに！

マザーハウスたより編集局

行事予定

▼ 10 / 20 ~ 21

西南学院大学にて、犯罪社会学会

▼ 10 / 27

中目黒駅・GT広場にて、
目黒区福祉バザーでマリアコーヒー販売

▼ 11 / 3 10:00 ~ 14:00

イースター祭にてマリアコーヒー販売

▼ 11 / 3 14:00 ~ 17:00

聖イグナチオ教会 岐部ホール 404にて、
対談「子どもの世界 親の世界」
(VIPプリズム) (参加費無料・入退室自由)

▼ 11 / 4 10:00 ~ 14:00

カトリック横須賀三笠教会バザーにて、
マリアコーヒー販売

▼ 11 / 5 18:00 ~ 20:00

マリア・カフェにて、APS 研究会

▼ 11 / 6日 18:00 ~

マリア・カフェにて、当事者ミーティング

▼ 11 / 10 14:30 ~ 17:30

暁星中学高等学校にて、研修会

▼ 11 / 11

立命館大学学園祭にて、
マリアコーヒー販売

▼ 11 / 15 10:30 ~

東京学芸大学にて、
人権教育の講義で講演

▼ 11 / 18

カトリック春日部教会にて、ミサ終了後より、
講演会「人生を変える出会いの力」

マリアコーヒー (ルワンダ・コーヒー)

* 製造から販売まで、元受刑者が携わっております。

FAX : 03-6659-5270

メール : maria_coffee@motherhouse-jp.org (QR →)

価格 : 粉200g または 豆200g …… 900円

カフェドリップ10g (1回分) … 100円



☆継続して購入・販売してくださっている皆さま(順不同)☆

カトリック茅ヶ崎教会 / カトリック北仙台教会 / カトリック所沢教会 / カトリック中和田教会 / カトリック布池教会 / カトリック東山教会 / カトリック浜松教会 / カトリック新子安教会 / カトリック菊名教会 / カトリック碑文谷教会 / カトリック東仙台教会 / カトリック春日部教会 / クリスト・ロア宣教修道女会 / カトリック足利教会 / カトリック神田教会 / カトリック松戸教会 / カトリック戸塚教会 / カトリック桃山教会 (平和環境部) / カトリック大分教会 / カトリック西千葉教会 / カトリック下井草教会 / カトリック新潟教会 / 日本カトリック神学院 / ドン・ボスコ社



☆ルワンダの祈り☆



ルワンダでは、1994年、フツ族によるツチ族の大虐殺がありました。史上稀に見る残虐な内戦によって、ルワンダの人々は心身ともに非常に深い傷を負います。

しかし内戦終了後、恨みや憎しみから、復讐が復讐を呼ぶ状況に陥りかねない中、ツチ族の人々は、復讐ではなく、和解と共生を選択しました。マリア・コーヒーは、この和解と共生の地から届けられた生豆を使用しております。

獄中POSTシリーズ

* 獄中ボランティアの方の絵画と文字をポストカードなどに印刷する企画です。

FAX : 03-6659-5270

メール : motherhouse.tayori@motherhouse-jp.org (QR →)



入手方法 : 会員の皆様や、ご寄付 (5000円以上) くださった方々、

その他の機会等で感謝を込めて配布させていただく予定です。

(絵画 + 言葉の組み合わせで、同じデザインは最大2枚のため、デザインはランダムです。)

* デザインの絵画部分を選んで購入されたい方は、講演会や郵送にて販売しておりますので、お気軽にお問合せくださいませ。

(ポストカード / 封筒は3枚で800円、便箋は30枚で800円)

ホームページ : <https://npo-motherhouse.amebaownd.com/> (QR →)



マザーハウスたより 10月号

2018年10月15日発行 発行責任者 : 五十嵐 弘志

〒130-0024 東京都墨田区菊川 1-16-17-102 NPO 法人マザーハウス



↑ 理事長 facebook ↑ 活動日記ブログ ↑ MLPのメール ↑ オンラインショップ

ラウレンシオ (便利屋業)

* 元受刑者の就労支援の一環として、不用品処理、遺品整理、掃除などをさせていただきます。お見積りも無料です。

TEL : 080-4614-8508

FAX : 03-6659-5270

メール : lawrance@motherhouse-jp.org (QR →)



古本募金 (きしゃぽん)

* 書籍やDVDを下記送り先にご寄付いただくと、マザーハウスに還元されます。

送り先 : 〒358-0053 埼玉県入間市仏子 916

(マザーハウス事務所に送らないようお気を付けてください)

TEL : 0120-29-7000

Webコンサルティング

* WEB解析士マスターの資格を持つ当事者スタッフが、サイト制作から解析、マーケティングまで一貫したコンサルティングをいたします。

メール : sepi@websepi.com (QR 右 →)

ホームページ : <http://websepi.co.jp/> (QR 左 →)



ホームページ ↑ メール ↑

カウンセリング

* 当事者やご家族の方を対象に、当事者スタッフが、実務に役立つ専門的なカウンセリングを行います。

メール : iwazakifuusui@gmail.com (QR →)

価格 : 30分5000円より

ホームページ : <http://profile.ameba.jp/fengshui0708/> (QR →)



お問合せ

いつも本当にありがとうございます。随時ボランティアの方を募集しております。

TEL : 03-6659-5260

メール : info@motherhouse-jp.org (QR →)

ホームページ : 「NPO マザーハウス」で検索ください。(QR →)



☆ご支援☆

口座名 : 特定非営利活動法人 マザーハウス (トクヒ) マザーハウス

郵便振替口座 : 00170-0-586722

みずほ銀行 : 新宿支店 普通口座 2376980

正会員 : 一口5000円 (年会費) 【獄POSミニセットをプレゼント】

賛助会員 : 一口3000円から 【獄POSポストカードを1枚プレゼント】

社会復帰支援 : ご寄付 【5000円以上で獄POSミニセットをプレゼント】

☆洋服等の物資の送付先 : 〒348-0061 埼玉県羽生市稲子 36-5

(担当者 : 江口 TEL : 080-4057-2518)